

西武百貨店池袋本店のごみゼロ運動

西武百貨店池袋本店では、ごみゼロ運動に取り組み、店舗内で出るごみの100パーセントリサイクルを達成しています。資源の枯渇問題やごみ問題が叫ばれている昨今、できる限りリサイクルに取り組むことが求められていますが、100パーセントリサイクルは、とても難しいことではないでしょうか。西武池袋本店ではどのようにごみゼロを実現しているのか、総務部の大口さんにお話を伺いました。



株式会社 そごう・西武
西武池袋本店 総務部 総務担当
大口 眞 さん

南池袋 1-28-1
<http://www.sogo-seibu.co.jp/>



生ごみから作られたコンポスト(肥料)

私どもは、1999年4月に百貨店で初めて「ISO14001」を取得するなど、環境活動に積極的に取り組んできました。そんな中、東日本大震災が起こり、流された建物や家財道具など大量のがれきが残されていることを知りました。そこで、私たちがごみの排出を減らすことで被災地のがれき処理が少しでも進み、復興の手助けになるのではないかと考えたことが、このプロジェクトに取り組んだきっかけです。

100パーセントリサイクルのために、まずごみの現状分析を行うことからはじめました。すると、ダストシュート、社員休憩室、各階のごみ集積場の各場所で、リサイクルできるものとできないものが混ざっていることが分かりました。

そこで、各場所の分別ラベルに手作りのアイコンを加えたり、表示の色を工夫したりすることで、外国人スタッフを含め、誰にでも分別方法



字とアイコンによる
ごみ箱の分別表示
場所: 社員食堂
(上) 紙、(下) 割り箸

が分かるものになりました。

今まで廃棄処理していた割り箸は、専用回収ボックスで回収し、リサイクル会社に100キロ1円で購入してもらうことで、セメントの材料としてリサイクルすることに成功しました。

また生ごみは、以前から、店内にある7台のコンポスト製造機で肥料に変え、提携している農園に無償で提供しています。ここで収穫された野菜は、店内地下2階の生鮮食品売り場で販売しています。

このような取り組みにより、ダンボールやプラスチック、粗大ごみなども含め徹底してごみを分別してリサイクルを行い、最終的に残ったごみのみ(汚紙等)を焼成処理※することで、2009年度66.5%だったリサイクル率を、2011年下期には100%にすることができました。

今後も、この運動の継続に力を入れるとともに、他にも様々な形で被災地の支援になることを考えていきたいと思っています。

※焼成処理とは、焼却物を石質の物質にする手法。その物質はコンクリートなどの一部としてリサイクルすることができます。



家庭でも生かせるリサイクル手法を大口さんに聞いてみました。

大事なことは、ごみを捨てる時にしっかりと分別をして捨てることです。リサイクルできないものが混ざっていると、リサイクルできるものもできなくなりますし、あとから分別し直すことも大変です。ごみ箱をいくつか置くスペースがなければ、一つのごみ箱の中で、袋を分けて入れて分別するといったと思います。

ご意見・ご感想・エコ情報をお待ちしております

はがき、メール、FAXのいずれかで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・「今号に対するご意見・ご感想」または「取り上げてほしいエコ情報」を明記のうえ環境政策課までお寄せください。

取り上げてほしいエコ情報は、ご家庭・経営するお店・会社・団体で取り組んでいることなど、何でも構いません。自薦、他薦は問いませんので、たくさんのお情報をお待ちしております。

宛先: 豊島区清掃環境部環境政策課
住所: 〒170-8422 豊島区東池袋 1-18-1
FAX: 03-3981-6207
メール: A0029180@city.toshima.lg.jp

ご意見・ご感想、エコ情報をお寄せいただいた方の中から、抽選で10名の方に「なままるソーラーライト」をプレゼント。(平成26年11月末日までの到着分が抽選対象です。) 発送をもって当選発表にさせていただきます。



「エコのわ」第14号 平成26年9月5日発行

発行: 豊島区清掃環境部環境政策課 〒170-8422 豊島区東池袋 1-18-1
電話: 03-3981-2771 (直通) FAX: 03-3981-6207
メール: A0029180@city.toshima.lg.jp
デザイン: 東京プランニング株式会社 表紙撮影: 榊野光路さん



第14号「みどり東京
温暖化防止プロジェクト」の助成事業です。